

# カリキュラム・マップ

異文化コミュニケーション学部の教育目的
高度な言語能力とともに幅広い知識と国際的教養を備え、複眼的な視点から多文化共生社会の進展に貢献できる人材を育成する。

学習成果（具体的に記述・箇条書き）
<p>「学士（異文化コミュニケーション学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。</p> <p>①論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。</p> <p>②自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。</p> <p>③ふたつの外国語（英語、ならびにドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語のいずれか）でコミュニケーションすることができる。ひとつの外国語については高度の言語運用を行うことができる。もうひとつの外国語については日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。</p> <p>④言語について、そして言語の背後にある文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら問題を発見し、解決する能力をもって異文化コミュニケーションの現場で指導的な役割を担うことができる。</p>

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
ことばと人間	必修科目	1	人間にとってことばとはどのようなものか、他者間のコミュニケーションにおいてことばはどのように働くのか、といった問題をテーマに、様々な哲学者・思想家の説とその批判を学びながら、自分の意見を論理的に構築し、議論することができる。	◎	○		
コミュニケーション入門	必修科目	1	様々な社会問題をコミュニケーション学の観点から考察することを通して、コミュニケーションの偏在性や権力作用を批判的に理解し、分析することができる。また、コミュニケーション学の基礎的な理論や鍵概念を学び、関心のあるコミュニケーション行為・事象・問題に適用することができる。		○		◎
基礎演習	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる日本語コミュニケーション力、情報リテラシー、日本語での論理的思考力を身に付け、日本語で論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△
コミュニケーションセミナー（英語）	必修科目・選択科目A	1～4	英語圏の文化や思考法を理解し、英語を通して人の意見を理解することを通して、英語で論理的に自分の意志を伝えることができる。	◎	◎	◎	◎
コミュニケーションセミナー（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語）	必修科目・選択科目A	1～4	必修科目の1・2は、「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。3は留学準備用と継続学習用の2種のクラスを設定し、中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。自由科目の4～6は上級レベルの言語知識とスキルを使って、読み、書き、話し、聞くことができる。			◎	◎
言語学入門	必修科目	1	言語学（音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、人類言語学、等）の基礎を理解し、説明する事ができる。特に、自分の身の回りの日常的な言語活動やコミュニケーション活動を、言語学的視点から考察し、分析する事ができる。	◎	○		△
地域・文化研究入門	必修科目	1	地域社会や様々な集団を構成する人々のアイデンティティの表現であり、日常生活に意味を与える象徴体系でもある文化の多様性を知り、多文化社会の重要性を認識できる。対象地域を成り立たせている固有の論理をえぐり出し、他者を知ることで自己の認識を深めることができる。	○	◎		◎
日本語コミュニケーション演習	必修科目・自由科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎		
Cultural Exchange	必修科目	2	多様な国からの学生と共同学習を実施することにより、多様な文化的知識を身につけ、異なる文化に対して理解し、受容することができる。日本語に限らず複数の言語を用いて他者とコミュニケーションを行うことを通して、実践的な異文化コミュニケーション対応能力を修得し、自ら使うことができる。	○	◎	◎	○
専門演習	必修科目	3・4	「言語教育」「異文化コミュニケーション」「地域・文化研究」の中から各自が選択した領域について、より深く理解し、説明、分析することができる。それまでに学んだ知識を再構成し、客観的に評価することで、卒業研究のテーマを絞り込むことができる。	△	△	△	◎
卒業研究	必修科目	4	「言語教育」「異文化コミュニケーション」「地域・文化研究」の中から各自が選択した卒業研究を完成させることができる。	△		△	◎
ビジネス日本語コミュニケーション演習	選択科目 選択科目A	3・4	敬語を含む待遇表現や電話応対など、ビジネス場面で必要とされる日本語スキルを修得し、自ら使うことができる。場面に応じた適切な日本語使用の必要性、重要性について認識し、日本語を適切に使用することができる。	◎	◎		
諸言語特別演習	選択科目 選択科目A	2～4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	○
海外留学研修	選択科目 選択科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。	○	◎	◎	◎
English Lecture	選択科目 選択科目A	2～4	言語、文化、コミュニケーションなどに関する講義を英語で受講することを通して、英語運用能力を高め、英語で講義を聴き、理解し、表現することができる。同時に、本学部の専門領域である言語学・言語教育、地域文化研究、異文化コミュニケーション研究についての理解を深め、英語で説明することができる。	○		◎	○
コミュニケーション学概論	選択科目 選択科目B	2～4	「コミュニケーション入門」で学んだ内容を踏まえ、一歩進んだコミュニケーション理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学の歴史や近接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。身近なコミュニケーション行為の以前とは異なった視点での観察、社会におけるコミュニケーションの偏在性の発見など、新たな発見や気づきを体験することができる。	○	○		

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
メディア論	選択科目 選択科目B	1～4	「声の文化」(orality)、「文字の文化」(literacy)、「印刷文化」(print culture)、「映像文化」(image culture)、「インターネット文化」(internet culture)など、テクノロジーやメディアを中心に、コミュニケーションを歴史的観点から考察し、説明することができる。	○			○
異文化コミュニケーション概論	選択科目 選択科目B	2～4	(異)文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	○	◎	○	◎
文化とコミュニケーション	選択科目 選択科目B	1～4	文化実践、文化抵抗、文化支配など、コミュニケーション行為の文化的側面に焦点を当て、コミュニケーションと文化の相互作用や文化の政治経済的側面を理解し、説明することができる。コミュニケーションが文化に規定された行為であると同時に、コミュニケーションが文化を創出し、修正し、変化させる役割を持つことに注目し、文化のダイナミクスを理解し説明することができる。	○	○		○
異文化トレーニング演習	選択科目 選択科目B	2～4	文化背景を異にする人々が円滑にコミュニケーションを行うために開発された異文化研修プログラムの体験学習を通して、異文化コミュニケーション能力を養い、あわせて異文化トレーニングプログラムの計画や実践の基礎的能力を身につけ、それを自ら使用することができる。	○	◎	○	◎
一般言語学	選択科目 選択科目B	2～4	「言語学入門」よりも、advancedな内容。比較言語学的・類型論的内容を理解し、説明することができる。形態統語論、音韻論や意味論、認知論、比較語用論、比較社会文化言語論なども広く含んだ、一般的な、よりコミュニケーション学的な比較言語学についての知識を獲得し、自らの言葉で説明することができる。	○			○
言語研究方法論	選択科目 選択科目B	2～4	言語研究を行う際に必要となるツールや、調査・実験の計画方法、データの処理や分析方法などについて学び、必要な場面で使うことができる。言語研究に必要な統計学、質的分析・量的分析の違いなどについても理解し、自らの調査や研究に応用することができる。	○			○
英語学概論	選択科目 選択科目B	1～4	英語の仕組みと運用の諸相について、日本語と対比することができる。英語コミュニケーションの理解を深め、自ら使うことができる。特に世界語としての英語のバリエーションについて学び、分析することができる。異文化・異言語の人々とのコミュニケーションをはかるために必要な英語力について認識を高め、それを自ら使用することができる。また、授業内レポートや課題図書レポートのディスカッションやプレゼンテーションを通して、内容を批判的に考察し、意見を述べるすることができる。	◎	◎	○	◎
日本語学概論	選択科目 選択科目B	1～4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。音韻、文法、表記、語彙など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○			◎
言語哲学入門	選択科目 選択科目B	2～4	近現代の言語哲学の中から次のようなトピックを論じつつ、言語の意味や指示、人間の理解のあり方などを考え、議論することができる。トピック:言語と実在、言語と知識、真理論と真理条件の意味論、言語の全体論と分子論、意味と意図、行為としての言語(言語行為論)、言語と規則に従うこと、メタファー、翻訳の不確定性、名辞と指示の固定性などを扱う。	◎	○		
コンピュータ・リテラシー	選択科目 選択科目B	1～4	言語教育、及び言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、使うことができる。具体的には、基本的なソフトウェアが使いこなせるようになるとともに、学生管理や教材開発、データの分析などに必要なソフトウェアの使い方、その知識を身に付けて、実際に必要な場面で活用できるようになる。	△			
アメリカの歴史	選択科目 選択科目B	1～4	「新世界」が今日示す特徴と課題を把握することができる。歴史を踏まえつつ、この世界の求心力・遠心力のゆくえを探り、自ら例をあげて説明することができる。同時に、近代の限界を越える手がかりをつかむために、「新世界」の例を世界全体の文脈に位置づけることができる。	◎	◎	○	◎
アジア・オセアニアの歴史	選択科目 選択科目B	1～4	環太平洋圏各地域の近代を中心とした歴史と、その歴史が生み出した地域ごとの現代の事情や変動について、幅広く学んでいく。そこから、目先の現象にとらわれず地域ごとの特徴と相互影響を見通す力を養う。	○	◎		◎
ヨーロッパの歴史	選択科目 選択科目B	1～4	ヨーロッパの歴史、ヨーロッパと他文化・他大陸との関係の歴史について概観することができる。また、特定の地域、時代の社会的・文化的事象について、歴史の中に位置づけて考察、分析することができる。	○	○		◎
近代日本の歴史	選択科目 選択科目B	1～4	日本の近代国民国家形成から現代に至るまでを学ぶ。沖縄の統合やアジアへの侵略、日中戦争と敗戦という経験を経て、第二次世界大戦後は冷戦下で歴史に対する責任を不問に付したまま、経済的成長を通じて現代社会を作り上げてきたことの意味と、その教訓を探っていく。	○	◎		◎
地域分析入門	選択科目 選択科目B	1～4	ある地域を成立させている社会的、文化的、歴史的特徴について、資料や個別の現象を理解し、分析することができる。また、個別の現象を分析するための方法論を身につけ、応用することができる。	○	○		◎
比較文化論概論	選択科目 選択科目B	2～4	象徴人類学における概念的な前提としての“文化”を探求し、再構成することができる。さまざまな日常生活上の習慣や行動パターンは、どのように文化に影響されているかを観察し解釈することができる。		○	△	○
文化人類学	選択科目 選択科目B	1～4	人間の文化についての総合的学問である文化人類学の基本的知識を身につけ、またその目的と意図を理解し、説明することができる。さらにはその方法論であるフィールドワークの仕方を実習し、自ら使用することができる。	○	◎	○	◎
文化と芸術	選択科目 選択科目B	1～4	音楽と美術を中心に、個別の時代・作家・作品について、歴史的・社会的・文化的背景などを考慮した多角的な解釈の方法を学び、説明することができる。芸術や文化の本質やそれらの関係について自分なりに考える力を修得し、自らそれらについて意見を述べるができる。	△			◎
フィールドワーク	選択科目 選択科目B	1～4	この科目の目的は、文化研究に不可欠な野外調査、現地調査の具体的な方法及び留意点を学び、実践することにある。実際に、アンケート調査、参与観察、インタビュー等を行うことによって、学生は調査することの本質を学び、またそれを通して、対人コミュニケーション、協力関係、倫理感等、人間的成長に欠かせない要素を体得することができる。	○	◎	○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
異文化コミュニケーション特論	選択科目 選択科目C	2~4	文化・人・コミュニケーションの関係を軸に、社会的問題のみならず、常識の範疇で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ(例えば、日本社会における多文化共生の実践など)を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎		◎
対人コミュニケーション論	選択科目 選択科目C	3・4	対人関係に密接に関わっているコミュニケーションについて、日常生活でみられる身近な現象をもとに考える。アイデンティティ、自己開示、帰属意識、儀礼、面目、立ち位置など対人コミュニケーションに関わる基礎概念を学び、関係性の発展、維持、摩擦、解消について考察する。友人間、家族間、世代間、異性間、医師/患者間など、様々な人間関係にコミュニケーションがどのように関与しているか理解を深め、自らの言葉で説明することができる。	◎	◎		◎
集団コミュニケーション論	選択科目 選択科目C	3・4	集団コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、集団コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、集団内の人間関係、役割、交渉などの側面に焦点を当て、集団内及び集団間コミュニケーションの実態や問題点を自ら考え、語るができるようになる。	◎	◎		◎
国際コミュニケーション論	選択科目 選択科目C	3・4	グローバル化が進む現在において私たちが直面しているコミュニケーションを巡る諸々の問題や課題を分析・討議することで、現代社会における国境を越えた交流について多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎	△	◎
スピーチコミュニケーション論	選択科目 選択科目C	3・4	対人、集団、組織、公的コミュニケーション状況において、話し言葉(広義の「スピーチ」)がどのように使われ、どのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。さらに、オンライン・チャットなどメディアを媒介とした新しい形の「スピーチ」も取り上げ、自らが日常的に行っているスピーチ・コミュニケーション行為が果たす作用や持つ意味について自覚的に考え、実践できるようになる。	◎	◎		○
非言語コミュニケーション論	選択科目 選択科目C	2~4	非言語コミュニケーションに関する理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。また、実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。	○	◎		◎
性とコミュニケーション	選択科目 選択科目C	3・4	セックス、ジェンダー、セクシュアリティが、どのように私たちのコミュニケーションのあり方に影響を与えるのかを、様々な状況に即して具体的かつ批判的に考察できるようになる。また、コミュニケーションを通して従来の性的規範がどのように強化されたり、変化したりするのかを理解し、実際のコミュニケーションの場で実践できるようになる。	◎	◎		○
コミュニケーションと権力	選択科目 選択科目C	3・4	現代社会における様々なコミュニケーション現象や事象を説得の観点から分析・討議していくことで、「コミュニケーションが社会でもつ(権)力」や「(権)力がコミュニケーションに与える影響」を批判的に考察し、より自覚的にコミュニケーションを実践できるようになる。	◎	◎		○
バイリンガリズム	選択科目 選択科目C	3・4	個人ならびに社会におけるバイリンガリズムについての基礎を学び、説明することができる。バイリンガルの言語使用や習得、認知の特徴などについて、モノリンガルと比較することができる。また、社会における二言語併用の実態と歴史、特定の言語の広まりと少数言語の衰退、言語政策など、社会レベルでのバイリンガリズムについて考察し、意見を述べるができる。	◎	○	△	◎
社会言語学	選択科目 選択科目C	2~4	ことばは、その使われている社会や文化、またそれを営む人々を色濃く反映している。ことばと文化・社会の関係について体系的に学び、説明することができる。実際の社会で使われていることばの分析を学び、ことばの働きへの洞察力を養い、身近な言語現象を社会言語学の視点で説明することができる。	◎	○	○	◎
認知言語学	選択科目 選択科目C	3・4	人間が事象をどのように意味づけ、切り取り、環境世界を構築してゆくかという認知プロセスは、ことばに何らかの形で反映されているということを理解する。我々が世界をどのように分類し、概念化するかの仕組みを、ことばの中に表れるメタファー、プロトタイプ、図と地、視点、構文等の現象を手がかりに分析し、語るすることができる。	◎	○		○
語用論	選択科目 選択科目C	3・4	言語使用の認知的・社会的・文化的側面についてより深く理解し、説明することができる。場面に応じた適切な言語使用とは何かについて考察し、言語コミュニケーションの意義を認識し、自ら事象にあてはめ分析することができる。		○		◎
通訳入門	選択科目 選択科目C	3・4	ビジネスや医療、司法、教育などコミュニティの場で必要となる対話通訳、国際会議で必要な逐次通訳と同時通訳、放送におけるメディア通訳などを試み、その基礎を理解し、実際に使うことができる。	◎	◎	◎	◎
通訳論	選択科目 選択科目C	3・4	異文化コミュニケーションの仲介行為としての通訳の社会的、政治的、文化的、認知的、職業的側面を学び、国際政治・ビジネス、多文化共生社会における通訳のニーズおよび通訳者の位置と役割について意見を述べることができる。	◎	◎	◎	◎
翻訳論	選択科目 選択科目C	3・4	英日翻訳をおこなうための基本的視点とスキルを習得し、それを自ら使うことができる。英語および日本語の特性・傾向をより深く理解し、説明することができる。ワークショップ形式による討論を通じて、批評的で客観的な姿勢で討論することができる。	◎	◎	○	◎
メディア・リテラシー論	選択科目 選択科目C	2~4	メディア・リテラシーとは、メディアから受け取る情報を鵜呑みにせず、主体的・批判的に判断した上で活用する能力のことであると理解した上で、各国におけるメディアリテラシー教育へ向けての取り組みを概観することによって、主にニュースメディアを例にとりながら、実践的にメディア・リテラシーを身につけ、自らがそれを使えるようになる。	○	○		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
視覚文化論	選択科目 選択科目C	3・4	テレビなどのマスメディアやアートに加え、映画やマンガといった映像表現やファッションなさまざまな領域にあらわれる視覚表現を総合的に「視覚文化」ととらえ、それを理解するための多様なアプローチ(例:社会学・美術史・映画論・メディア論・記号論)を理解し、説明することができる。	○	○		○
メディア社会論	選択科目 選択科目C	3・4	現代社会はしばしば「メディア社会」、つまり、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットといったマスメディアを通して編成された社会であるといわれることを理解した上で、メディア社会論を現代社会理解の一つのモデルととらえ、他のモデル(消費社会論、イメージ社会論など)と関連づけながら考察し、説明することができる。	◎	○		○
談話分析	選択科目 選択科目C	3・4	「ことば(=ディスコース)」によって「知」(または情報)はどのように伝達されるのか、「知」(または情報)の伝達によって会話参加者の間にどのような関係が構築されるのか、その場がどのように定義されるかという問題を、60年代半ば以降、主としてアメリカで発達した会話分析の理論を学びながら、それらを使い、改良を加えて具体的な事象を分析することができる。	◎			◎
文化記号論	選択科目 選択科目C	3・4	記号論的な視点を学びながら、様々な文化現象を記号とみなす試みを考察し、記号とは何か、意味とは何かといった問題を検討することによって、論理的・批判的思考能力を養い、自らそれらを使用して意見を述べるることができる。	◎	○		△
エスニシティ論	選択科目 選択科目C	3・4	集団の自己認識としてのエスニシティおよび具体的な集団(エスニック・グループ)の形成過程を理解し、説明することができる。社会内少数派の立場への共感を示すことができる。多数派が無意識に発揮するエスニシティへの自覚を高めることができる。	◎	◎	○	◎
英語圏文学論	選択科目 選択科目C	2～4	英語圏の文学について学び、詩、小説、戯曲などに表現される人間の営みについて考えることにより、その地域への理解を深め、文学を批判的に分析し論じることができるようになる。	○	○		◎
ヨーロッパ圏文学論	選択科目 選択科目C	2～4	ヨーロッパ圏の文学について、テーマや歴史的背景に注目しながら考察する力、またヨーロッパ内における諸文化間の影響関係、またヨーロッパと異文化との接触が、文学テキストにどのように描かれているかを理解する力を身につけ、自ら説明し、評価することができる。	○	○		◎
アジア圏文学論	選択科目 選択科目C	3・4	日本を含むアジア圏の文学を、それぞれの国の社会背景や他地域からの影響を視野に入れつつ、同時代的観点から比較・分析する。	○	○		◎
複合地域文化研究	選択科目 選択科目C	2～4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べるることができる。	◎	◎		◎
国際協力論	選択科目 選択科目C	2～4	国際関係の論理を考慮しながら、国と国との間の紛争から貿易や友好関係の基本にして、日朝・日韓関係の歴史と現代を調査することができる。	◎	○	△	◎
宗教と社会	選択科目 選択科目C	2～4	自然宗教から新宗教まで、世界の多様な宗教伝統及び宗教現象について基本的知識を身につけ、また社会との関係を考察・分析をすることによって、宗教とは何かについて考察し、意見を述べるができる。	○	◎	△	◎
戦争と平和	選択科目 選択科目C	3・4	戦争の論理および平和を構築するための条件を理解し、説明することができる。朝鮮戦争と現代の北朝鮮危機などをケース・スタディーとして検討することにより、より平和的な世界を実現するための方法を具体的に述べるることができる。	◎	○	△	◎
環境論	選択科目 選択科目C	3・4	一般的、または専門的な知識に基いた個別、総合的な視点から環境を視野にいれた社会や文化の考察の方法を探る。環境を考察する視点の社会文化的な有用性を認識し、それらの見方を分析することができる。	○	◎	△	◎
日本文化論	選択科目 選択科目C	2～4	日本文化の特質・属性を時間的・空間的に把握し、理解できる。時間的には形成過程とその背景にある社会・民俗などの影響、空間的には日本国内の同時代の類似表象との比較及び他文化圏からの影響関係から読み解く。日本文化を理解することで、他文化圏の文化を理解する上での比較基準を得ることができる。		◎		◎
芸術論	選択科目 選択科目C	3・4	音楽・美術・演劇などの諸芸術について、芸術の定義、理論を知り、地域性、時代性、あるいは個別の作家の特性を踏まえた的確な理解に基づいて、自分なりの芸術論、芸術観を論じることができる。	◎	○	△	◎
大衆文化と社会	選択科目 選択科目C	2～4	大衆文化と呼ばれる文化現象について、それを生み出す社会的条件、メディアの状況などの知識に基づいて、分析することができる。また、個別の例について分析し、社会に与える影響について論理的に検討したり、仮説を出すことができる。	◎	○		◎
比較文化論	選択科目 選択科目C	2～4	文化概念についての学問的な議論の枠組みを踏まえ、個別の文化現象について客観的な位置づけをすることができる。また、複数の文化現象について複眼的に比較分析を行うことができる。	○	◎	△	◎
近代文明論	選択科目 選択科目C	3・4	近代は異文化との出会いにより始まったといえる。この時代の芸術運動としてのモダニズムについて学び、文明交流の諸相を分析し理解することができる。	○			◎
歴史社会学研究	選択科目 選択科目C	3・4	社会を構成する人々とそのさまざまな集団に着目し、彼らが生み出す文化や社会的現象について、歴史的な考察をすることができる。また、新聞、雑誌、日記、自伝等を使って、市井の人々の生活の実態から歴史的状况を解説することができる。	○	◎		◎
人と移動研究	選択科目 選択科目C	3・4	植民政策、経済的・政治的理由による移民、紛争、戦争等による難民、新天地を求めての移住など、さまざまな人の移動について、歴史的、社会的背景についての知識を踏まえて論じることができる。また、そのような人の移動によって生じる文化接触について、資料を分析し考察することができる。	○	◎		◎
周縁文化論	選択科目 選択科目C	2～4	出自やエスニシティ、ジェンダーやセクシュアリティ、病や障がい等によってある社会の周縁に位置する人々の間に、主流や中心とは異なる文化が構築される現象に注目し、社会的、政治的背景を考慮に入れながら分析することができる。	○	◎		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
多文化関係論	選択科目 選択科目C	3・4	さまざまな文化の並立する世界を認識し、文化の差異が構成される条件を具体的に延べることができる。また、さまざまな異なる文化が互いに尊重されながら共生するための方策について、客観的に論じることができる。	○	◎		◎
異文化交流史	選択科目 選択科目C	2～4	地域間の文化交流、相互影響について、歴史的経過についての知識をふまえ、その意味を分析し、現実を説明することができる。また、各地域が培ってきた文化とその背景について、基礎的な知識を身につけ、説明することができる。	○	◎		◎
言語学特論	選択科目 選択科目C	3・4	近代西洋における言語理論／言語研究の歴史、形式文法(新ブルームフィールド学派から生成文法、生成意味論まで)と機能文法(ブラハ学派／ヤコブソン／ハリデー、グリーンバーク／コムリー系の比較言語学・類型論、ディクソン／ニコルスなど、サビア以降の北米・豪州機能文法)とを比較し論じることができる。	○		△	◎
英語学特論	選択科目 選択科目C	2～4	印欧祖語から現代英語までの英語の発達を歴史的に概観することによって理解し、説明することができる。これまでの英語学、言語学及び文法理論の変遷と成果を基に、今後の英語学と言語教育の研究方法について理解し、説明することができる。	○		△	◎
日本語学特論	選択科目 選択科目C	3・4	1つの言語としての日本語を使用場面、歴史など様々な点から分析することができる。日本語の諸相に触れることによって、日本語研究の視点を身につけ、自らそれを使って分析することができる。	○		△	◎
言語教育学特論	選択科目 選択科目C	3・4	外国語教育カリキュラム論、外国語教育教材論について理論的に理解し、説明することができる。教育現場において、教員として自らが目指す英語教育を実現するためにはどれも必要不可欠なカリキュラム、シラバス、授業案、教材について知識を得て、自らの教育に使うことができる。	○		△	◎
心理言語学	選択科目 選択科目C	3・4	人の行動全般の中で特に重要なひとつである「言語」について、理解し、説明することができる。言語をコミュニケーションの重要なツールとして捉え、心理的なプロセスの中における言語使用について理解し、説明することができる。	○	○		◎
理論言語学	選択科目 選択科目C	3・4	意味論、語彙論、統語論の基本的な知識を学び、理解し、それぞれの視点から言語を分析することができる。	○			○
音韻論	選択科目 選択科目C	3・4	調音器官の基本的な仕組み、各個音声の調音の仕組み等音声学の基本的事項を理解し、説明することができる。言語体系における音声の価値づけとしての「音素」の概念や、言語における音韻規則に関する主要な説について理解し、説明することができる。			△	△
英語音声学	選択科目 選択科目C	3・4	英語の音声学的・音韻論的特徴を理解し、具体的に述べることができる。短音の調音点や調音法を区別し、強勢やイントネーションなどの韻律的特徴を分析し、音響特性を理解し、説明することができる。			△	◎
英文法演習	選択科目 選択科目C	2～4	英語文法の体系的に把握し個々の言語事象を観察することにより、英語の文法規則と機能を理解し、説明することができる。特に、可算、不可算、時制など英語特有の文法の基礎概念について理解し、文法性、非文法性の規則と判断基準について自分の言葉で説明することができる。	◎	◎	○	○
英語教育学概論	選択科目 選択科目C	2～4	英語教育とは何なのか、英語とはどのような言語なのか、どのような教え方があるのか、日本ではどのように教えられてきたのか、英語の語彙、文法、読み、書き、聞く、話す、などをどのように教えればよいのか、海外ではどのように英語を教えているのか、これからの英語教育はどうなるのか、などについて理解でき、自分の意見を述べるようになる。	○	△	△	◎
英語教授法	選択科目 選択科目C	3・4	外国語教授法の歴史を振り返りながら、レスンプラン、シラバスデザイン、およびカリキュラムデザインについて理解し、説明することができる。また、さまざまな教授法の4技能(+α)の具体的な指導法を理解し、自分の言葉で説明することができる。	○	△	△	◎
英語教授法実習	選択科目 選択科目C	3・4	いかにしてコミュニケーション能力を身につける指導法を中高の教育現場で活かしていくかを念頭におきながら、自らがレスンプランを立てて模擬授業を(必要に応じて教材や教具の作成も含めて)行うことができる。実践的な英語指導技術を身につけ、実際に使うことができる。	○	○	○	○
英語科教育研究	選択科目 選択科目C	3・4	英語教育に関するさまざまなトピックの中から、その時々で重要なものを複数取り上げ集中的に研究することを通して、学習指導要領とは何か、新指導要領が目指すもの、教師・学習者論、IT機器と英語教育、学習者コーパスの活用、外国語学習と記憶、ESPとは何か、教員研修と教員の再教育、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの成功と失敗、などについて学び、説明することができる。	○	△	△	◎
言語政策	選択科目 選択科目C	3・4	世界各国や地域の言語政策や外国語教育政策を検討し、その背景を理解し、言語と文化・社会との関係について自らの言葉で説明することができる。公用語政策、少数民族や移民に対する言語政策、二言語併用教育、各国の小中高等教育課程における外国語教育、バイリンガリズムなどについて理解し、説明することができる。	○	○		◎
早期外国語教育	選択科目 選択科目C	3・4	幼児・児童を対象とした外国語(英語)教育の意義を理解し、その価値を認めることができる。外国語教育政策、心理発達過程、言語習得過程を認識した上で、子どもに適したカリキュラムを検証する。また、様々な教具・教材を活用した具体的な教え方を習得し、自ら使うことができる。	○	△		◎
第1言語習得理論	選択科目 選択科目C	3・4	言語習得についての基本的な理論を踏まえた上で、子どもが第一言語(母語)を習得する過程ならびにこどもの言語の特徴を、音声、語彙、統語、談話など各側面について、講義ならびに実際のデータの分析を通して理解し、自らの言葉で説明することができる。	◎	○	△	◎
第2言語習得理論	選択科目 選択科目C	3・4	第2言語習得のメカニズムについて理解し、述べる事ができる。第2言語習得の理論構築の歴史を概観しながら代表的な理論やモデル(普遍文法理論、母語転移理論、モニターモデル、認知モデル、社会文化理論など)について説明することができる。また、最近のインプット・インタラクション研究、個人差研究、言語脳科学研究についても理解し、説明することができる。	◎	○	△	◎
外国語教育評価論	選択科目 選択科目C	3・4	言語テストの種類、測定方法、測定尺度、テストの信頼性と妥当性などを理解し、説明することができる。得られたデータを分析・解釈する手法を身につけ、それを自ら使うことができる。	○			◎
日本語教授法	選択科目 選択科目C	2～4	母語ではなく1つの言語としての日本語の諸特性を理解し、説明することができる。日本語を母語としない人に日本語をどう効果的に教えるかを理解し、具体的に述べる事ができる。教材分析、教授法の比較、教案作成、問題作成などをすることができる。	○	○	○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)ふたつの外国語でコミュニケーションをすることができる	4)言語と文化や地域について幅広い知識と教養を有し、それを活用しつつ、自ら発見解決できる能力をもって指導的な役割を担うことができる
日本語教育実習	選択科目 選択科目C	3, 4	具体的な学生のレベルを想定し、教材作成、教案作成をすることができる。学生間での模擬授業を経て、最終的には実際の学生に授業を行い、その結果を相互で評価し、個々の教授スキルを改善することができる。	○	○	○	◎
基礎からのドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語	自由科目	2~4	第3言語として外国語を学ぶためのクラス。「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を身につけ、自ら使うことができる。			◎	◎

※網掛け以外の箇所はすべて2012年度からの変更科目